

message 「ビジネススクール開校に寄せて」



小樽商科大学 ビジネススクールに 期待する

北海道知事
高橋 はるみ

このたび、小樽商科大学が、平成16年4月、本道において最初の専門職大学院としてビジネススクールを開校されましたことに、心からお祝い申し上げます。

この間の諸先生方並びに関係者各位のご努力はもとより、永年にわたる研究実績や社会貢献が高く評価されたものであり、茲に改めて深く敬意を表します。

貴学は、これまで我が国の商学・経済学等の研究に先駆的な役割を果たされ、創立以来今日まで90年有余にわたり、多彩な人材を輩出されてこられました。

今後はビジネススクールにおいても地域経済に貢献される高度産業人材が続々と輩出されるよう、歴史と伝統ある貴学の新たな挑戦に大きな期待が各方面から寄せられています。

近年、急速に進む高度情報化、グローバル化や少子高齢化といった時代の大きな潮流の中で、「官から民へ」、「国から

地方へ」という構造改革などが加速され、私たちを取り巻く社会環境も様々な面において大胆な変革が迫られています。

こうした中、今、北海道には、情報技術、バイオ技術、新エネルギーといった先端分野で世界に誇る技術の芽が育ちつつあります。このような新しい技術を開発しながら、新産業おこしや事業おこしに取り組むとともに、技術シーズだけではなく市場調査や顧客ニーズを巧みに取り込み実効性の高い事業計画を作成する企画力や実践力を身につけた人材がますます求められています。

国の経済に回復の兆しが見えつつある中で、本道経済は依然として厳しい状況にあります。新産業おこしや既存事業の拡充にとって、本道産業を担うスペシャリストの育成や、社会経済環境の変化に的確に対応できる職業能力の開発が重要な課題となっています。

私は、本道の産業活性化にとって、MBAのような実践的なビジネス教育が必要であるとの考えから、昨年策定した北海道新生プランの中で、MBAやMOT（技術経営）など、大学が実施するビジネス教育の推進を支援しているところであります。

貴学に対する期待が一層高まる中で、小樽商科大学ビジネススクールが大学の知的資源を十分に活用され、高度産業人材の育成を通じて活力ある北海道づくりに寄与されますことを心からご期待しております。

message 「ビジネススクール開校に寄せて」



組織は人なり

小樽市長
山田 勝磨

この度、小樽商科大学において、秋山義昭学長のもと、松本康一郎専攻長をはじめ関係者の皆様のご尽力により、専門職大学院であるビジネススクールが開校されましたことを心からお祝い申し上げます。

小樽商科大学は、明治43年に全国で5番目となる高等商業学校として設立されましたが、地元経済界などが資金や土地を提供したことが要因となって、小樽への誘致が実現したと聞いております。以来、小樽商科大学は、地元小樽をはじめ、全道、全国に優れた人材を多数輩出し、日本経済の発展に大きく貢献してきました。

本年4月から新たに開校したビジネススクールでは、従来型の「知識を伝える」という教育スタイルではなく、徹底したケーススタディやグループディスカッションなどを通じ、企業等が求める「自ら課題を発見し、解決方法を導き出す」という実践的な能力を身に付けた人材を育成すると伺っております。また、平日の夜間や土曜日の講義、長期履修学生制度など、社会人の皆様にとりましても、通学しやすいように環境が整備されていることも、特長の一つとなっております。

起業を目指す人にとりましては、このビジネススクールに通学することによって経営に必要な知識の習得や経営戦略の企画・立案についてのスキルを高めることができますし、また、ビジネスマンや技術者等で、キャリアアップを目指す人にとりましては、知識の幅を広げ、自己の能力を伸ばすことによって、実業においても効果が上がるものと期待しております。

「組織は人なり」。小樽商科大学ビジネススクールが企業家精神旺盛な職業人を養成し、また、多くの卒業生の皆様が、世界へ羽ばたいて活躍されますことを心より祈念申し上げます。